

普及活動情勢報告（平成 29 年 7 月分）

中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所

夏秋トマトの栽培技術向上に向けて ～「大豊とまと」が先進地視察を実施～



育苗管理の説明を受けるメンバー

6 月 20 日・21 日、大豊町の有機栽培トマト農家を中心に組織された「大豊とまと」の農家 7 人は、岐阜県高山市の夏秋トマト産地を昨年の 10 月に引き続き視察し、栽培管理等を学びました。

普及所は視察研修に同行し、視察先の優良事例を整理して、参加農家が改善すべき点について助言しました。

農家からは「今回は、育苗管理や定植初期の管理を重点に視察し、定植前の苗の状態などを見ることで、理想とする状態が把握できた」等の声がありました。

普及所は、視察に参加しなかった会員への報告会開催など組織活動や各農家の生産安定に向けて支援します。

ISOからGAPへ、良い農場管理を目指す



園芸部役員会で GAP 勉強会を開催

6 月 28 日、JA 土佐れいほく本所で園芸部役員 5 人、JA 職員 7 人、普及所 7 人が参加して、GAP 勉強会を開催しました。

GAP「Good Agricultural Practice」では、「食品安全」、「環境保全」、「労働安全」の 3 項目について、「事故を防ぐ手段」と「事故が起こったときの対応方法」を実践して、良い農場管理を目指します。

嶺北地域では ISO14001 の認証を取得し、環境に負荷をかけない農業を実践してきました。

勉強会では、環境農業推進課の担当者の講習で GAP の理解を深めた後、嶺北地域での取組について役員に協議してもらいました。

その結果、来年 2 月の園芸部総会で GAP への移行について承認を得るため、年内に嶺北版の点検シートを作成することになりました。

普及所は、ISO の実践経験を生かしてスムーズに GAP に取り組むことができるよう支援します。

販路拡大に向けて商品化の見直し～6次産業化支援チーム会（1回目）～



取組内容について検討中

6 月 28 日、本山町キムチ生産組合うれっこ 4 人、アドバイザー 2 人、県職員 5 人（地域農業推進課、計画推進課、普及所）が参加して、普及所会議室で第 1 回 6 次産業化支援チーム会を開催しました。

普及所から加工の取組経過を説明した後、アドバイザーと本山町キムチ生産組合うれっこを中心に現状を把握して、H29 年度の目標を設定しました。買取販売に向けた販路開拓（3 カ所以内）で 50 万円以上の販売金額を目指すことになり、商談に向けて商品と製造工程の見直し・販路開拓を行っていきます。

普及所は、本山町キムチ生産組合うれっこがキムチを地域の商品としてブラッシュアップし、販売金額向上を目指していく取組を支援していきます。

嶺北地域の環境保全型農業を学ぼう！－香川県の小学校で出前授業を開催－



天敵を真剣に観察する小学生

6月30日、香川県高松市立花園小学校でJA土佐れいほく園芸部が出前授業を開催し、小学3年生55人に嶺北地域の農業を紹介しました。児童たちは米ナスの栽培や天敵昆虫について講義を受けた後、実際に天敵昆虫を観察し、「こうち野菜体操」で元気に体を動かししました。

普及所は嶺北地域を紹介するスライドの作成や天敵昆虫を準備するなど、開催を支援しました。

講義終了後には天敵の値段やエサ、米ナスのかん水管理方法など小学生からの様々な質問に答え、より理解を深めてもらいました。

今後も普及所は、嶺北地域で取り組まれている環境保全型農業について多くの人に発信していきます。

柚子の青果生産に向け一歩前進



研修会の様子

7月5日、大豊町の大砂子柚子生産組合14人を対象に大砂子集会所で研修を行いました。内容は「青果生産に向けた体制づくり」と「着果が増減する要因と対策について」の2つで、これまでの調査結果や研究データ等に基づき具体策を提案しました。

無農薬栽培で、あまり手をかけない酢玉生産を行っている組合ですが、「青果生産に必要な防除作業を外部に委託することで、青果生産のモデル園をつくってみたい」「これからは樹の状態を見ながら、施肥や剪定の方法を変えてみる」といった反応があり、提案内容が概ね受け入れられました。

今後、普及所はモデル園の収益アップを最優先に取り組み、併せて、将来に向けた園地や機械の整備等の具体策を提案していきたいと考えています。

カラーピーマンの品種特性を学ぶ ～カラーピーマン部会視察研修（滋賀県）～



栽培ハウスを見学する部会員

7月6日、JA土佐れいほく園芸部カラーピーマン部会員15人は、三色ピーマンの種子を供給している滋賀県の丸種株式会社試験農場を視察し、品種特性について研修しました。

普及所は、品種特性について参加者の理解を深めるため、試験農場の研究員から情報を引き出す一方で、産地からの要望を種苗会社につなぎました。

今後、普及所は品種特性を生かした栽培管理の見直しについて生産者と検討していきます。

第3回クルベジ定例会～夏秋でもっと儲けよう！～



儲けるためにはどうしたら
よいか、熱心に協議

7月6日、普及指導員3人と(株)大豊ゆとりファーム職員3人、研修生1人が参加し、第3回クルベジ定例会を大豊町農業センターで行いました。

普及所からは、前回を振り返り、課題の整理や経営の柱である夏秋作物の収益をあげるための栽培状況の確認、今後の管理について協議しました。今作では定植遅れが目立ったため、改善に向け、普及所から品目選定や適切な作付時期、ほ場の効率的な管理等について情報を提供しました。

普及所は、来月も引き続き今作の状況に応じた改善策を助言し、来春に向けた作付計画についてもファームの担当者から提案を引き出し、販売額向上に向け重点的に支援していきます。

集落営農に取り組んでみませんか～土佐町集落営農視察研修～



「上東地区営農組合」の活動
を研修する参加者

7月7日に、「集落営農視察研修」(主催:土佐町)が開催され、土佐町内の集落営農組織や集落活動センター等に取り組む16人が、いの町吾北の「上東地区営農組合」「農漁村女性グループによる農家レストラン」「森の小さなお菓子屋さん」で研修しました。

「上東地区営農組合」では農業や農地を守る活動、「農家レストラン」「お菓子屋さん」では地域の産物を活かす活動を学び、参加者からは「集落営農を身近に感じた」「ステップアップに取り組みたい」などの意見が出されました。

普及所は、中央西農業振興センターの協力を得て視察先検討や集落営農の啓発等、効果的な視察研修に向けた支援を行いました。

今後とも集落営農の組織化やステップアップへの取組を支援していきます。

‘吟の夢’の特別栽培米の現地検討会を開催～吉延営農組合～



参加者全員で幼穂長を確認

7月10日、本山町吉延で現地検討会を開催し、生産者5人が参加しました。吉延営農組合では、本年度、地元酒造会社「土佐酒造」からの依頼により、酒造好適米‘吟の夢’の特別栽培に初めて取り組んでいます。

今回の検討会では、普及所から病虫害防除など栽培管理上の注意点を説明した後、生産者全戸のほ場を巡回して、穂肥の施肥時期や量について検討しました。

生産者からは、「いもち病、カメムシ類の防除を徹底することが大事だ」との意見がありました。

今後、普及所は付加価値の高い酒米生産に向けて、収穫適期を判断するなど栽培を支援していきます。

夏期の栽培管理の徹底 ーカラーピーマンの目慣らし会を開催ー



目慣らし会の様子

7月12日、JA土佐れいほく園芸部カラーピーマン部会はJA本所で目慣らし会を開催し、部会員15人が参加しました。

会では出荷規格について協議し、確認するとともに今後の栽培管理について検討しました。

普及所からは、夏期の高温時における栽培管理方法と注意点を説明しました。参加者は「天敵昆虫を使用する際の農薬の濃度について教えてほしい」「巡回指導の回数を増やしてほしい」「土壌溶液分析の基準値を明らかにしてほしい」などの質問や要望が出され、活発に意見交換しました。

普及所は、収穫最盛期に向けた栽培管理や病虫害防除に関する指導に力を入れていきます。

出荷が始まったミニトマト「アイコ」の目慣らし会を開催



新たに導入した選果機で選別された果実を説明するJA職員

7月13日、JA土佐れいほくミニトマト部会は、出荷が始まった「アイコ」の目慣らし会をJA土佐れいほく大田口集出荷場で開催し、生産者10人、市場関係者1人、JA職員1人、普及所1人が参加して新しい規格を決めました。

「アイコ」はラグビーボール状の果形で、7～11月にかけて県内の量販店に出荷され、消費者から味の良さが支持されています。

新たに導入された選果機を利用し、大きさや重さで3段階に区分し、着色が進んでヘタの取れたミニトマトはマルAとすることを決定しました。

参加者からは「出荷労力を軽減できる規格にしたい」「ヘタが取れたミニトマトは味が良いので、消費者に理解してもらいたい」などの声が聞かれました。

普及所は、生産者と市場の意向を整理して、双方が納得できるように誘導し、今後も出荷の拡大に向けて支援します。